



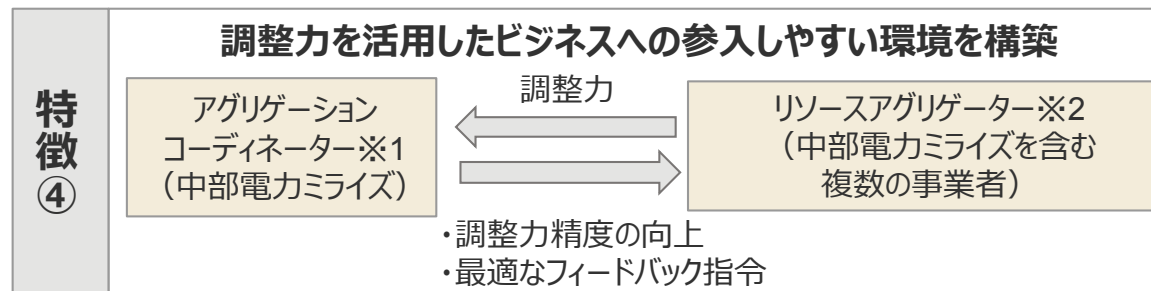
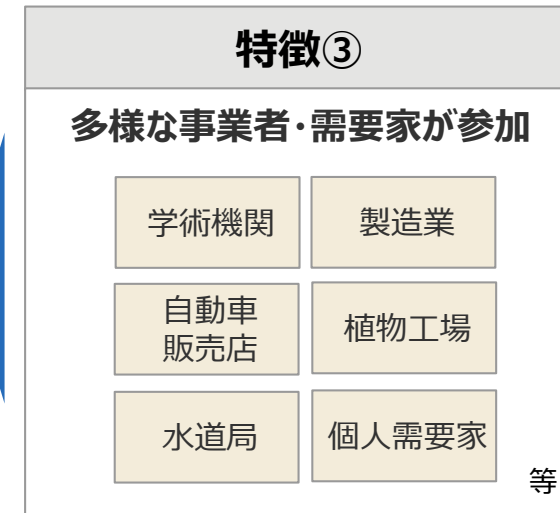
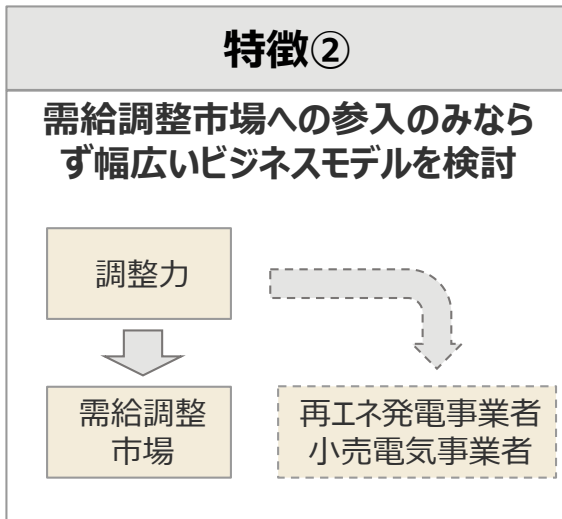
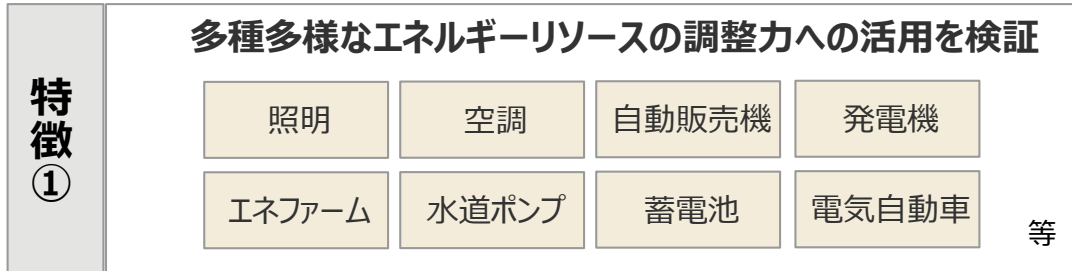
中部電力ミライズ

令和2年度VPP構築実証事業の概要

2020年6月5日

中部電力ミライズ株式会社

本実証の目的および特徴



※1 リソースアグリゲーターが制御した調整力を束ねて、一般送配電事業者や小売電気事業者と直接取引を行う事業者

※2 需要家のリソース制御を行う事業者

■ 実証項目

エネルギーリソースの制御精度の向上	電気自動車、蓄電池等を活用し、エネルギーリソースの制御計画値と実績値の乖離を補正し、低減させる。
エネルギーリソースの多様化	エネルギーリソースとしてエネファーム、水道ポンプ等を活用した際の、実用可能性を検証する。
電気料金を変動させることによる、電力需要のシフトおよび調整力の活用	大学設備を活用し、1日の電気料金を変動させることにより電力需要が柔軟に調整可能かを検証する。
調整力による再エネ出力抑制の低減	調整力を活用し、太陽光発電等の再エネ発電における出力抑制を低減する手法を検証する。
再エネ発電量の計画値と実績値の誤差の低減	太陽光発電等の再エネの発電計画値と天候変動等による実績値の誤差を、調整力により低減する手法を検証する。

■ 実証期間

2020年6月～2021年3月（予定）

スケジュール 2020年6月～2020年8月：実証内容の詳細検討、実証用サーバの仕様検討・改修
2020年9月～2021年1月：実証設備の設置工事、他社サーバとの連携、実証試験
2021年2月～2021年3月：実証結果分析、実証成果報告書作成、報告

コンソーシアム参画者一覧

○アグリゲーションコーディネーター

- ・中部電力ミライズ株式会社（愛知県名古屋市、代表取締役 社長執行役員：大谷真哉）

※50音順

○実証協力事業者（アグリゲーションコーディネーターの業務を一部担う事業者）

- ・国立大学法人京都大学（京都府京都市、総長：山極壽一）

○リソースアグリゲーター【6社】

- ・エフィシエント株式会社（東京都港区、代表取締役：坂越健一）
- ・大阪ガス株式会社（大阪府大阪市、代表取締役社長：本荘武宏）
- ・中部電力株式会社（愛知県名古屋市、代表取締役社長 社長執行役員：林欣吾）
- ・中部電力ミライズ株式会社（愛知県名古屋市、代表取締役 社長執行役員：大谷真哉）
- ・株式会社トヨタエナジーソリューションズ（愛知県豊田市、代表取締役社長：等哲郎）
- ・株式会社明電舎（東京都品川区、取締役社長：三井田健）

○実証協力需要家【9社】

- ・住友金属鉱山シポレックス株式会社（東京都港区、代表取締役社長：青野義道）
- ・中部電力パワーグリッド株式会社（愛知県名古屋市、代表取締役 社長執行役員：市川弥生次）
- ・株式会社椿本チエイン（大阪府大阪市、代表取締役社長：大原靖）
- ・株式会社トヨタオートモークリエイト（愛知県名古屋市、代表取締役社長：河合利夫）
- ・豊橋市上下水道局（愛知県豊橋市、上下水道局長：山本晋）
- ・名古屋都市エネルギー株式会社（愛知県名古屋市、代表取締役社長：大谷真哉）
- ・日清紡ホールディングス株式会社（東京都中央区、代表取締役社長：村上雅洋）
- ・ネットヨタ愛知株式会社（愛知県名古屋市、代表取締役社長：平光順二）
- ・富士電機株式会社（東京都品川区、代表取締役社長：北澤通宏）

○実証協力研究室（個別実証における分析・評価を行う研究室）【3研究室】

- ・国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学未来材料・システム研究所 加藤研究室（愛知県名古屋市、教授：加藤丈佳）
- ・国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学施設・環境計画推進室 田中研究室（愛知県名古屋市、教授：田中英紀）
- ・国立大学法人横浜国立大学大学院環境情報研究院 鳴海研究室（神奈川県横浜市、教授：鳴海大典）

■ 需給調整市場の商品区分

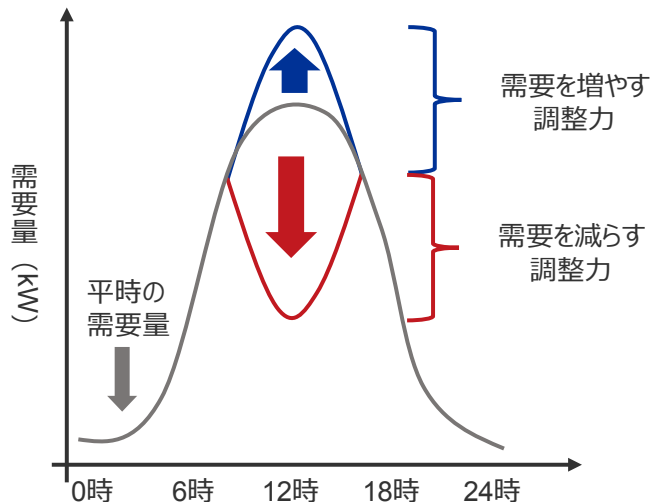
	一次調整力	二次調整力①	二次調整力②	三次調整力①	三次調整力②
応動時間	10秒以内	5分以内	5分以内	15分以内	45分以内
継続時間	5分以上	30分以上	30分以上	3時間	3時間
指令間隔	— (自端制御※)	0.5~数十秒	1~数分	1~数分	30分

※中央給電指令所からの信号による指令ではなく、自端で周波数を検知して制御を行うこと

(参照) 第13回需給調整市場検討小委員会 (2019.8.1) 資料2

https://www.occto.or.jp/iinkai/chouseiryoku/jukyuchousei/2019/files/jukyu_shijyo_13_02.pdf

■ 調整力について



区分	内容
需要を減らす調整力	調整力発動により電気の需要量を減らす 例：電気のピーク需要のタイミングでエネルギーリソースの稼働を落とし、需要と供給のバランスを取る
需要を増やす調整力	調整力発動により電気の需要量を増やす 例：再エネの過剰発電分をエネルギーリソースの稼働により消費したり、蓄電池を充電することにより吸収したりする